

式辞

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。保護者の皆様もお喜びのことと思います。小樽商科大学の教職員を代表して、新入生の皆さんが本学の一員となることを心から歓迎致します。

本日は新型コロナウイルス対策として三密を避けるため、入学式を2回に分けて行います。また、保護者の皆様にはご参加を控えて頂きましたが、この入学式の様子はオンラインで配信しています。少しでも入学式の雰囲気を感じて頂ければ幸いです。

今年から大学入学共通テストが開始されました。昨年になり基本方針が変更されるなど、受験生の皆さんには大きな戸惑いがあったと思います。さらに緊急事態宣言による高校の休校などもあり、大変な受験シーズンを経験したと思います。これを乗り越えた皆さんの努力に敬意を表したいと思います。

本学は明治44年、1911年に我が国で5番目の高等商業学校として設立されました。今年が創立110周年の節目の年に当たります。創立以来、初代校長渡邊龍聖が掲げた、「実学・語学・品格」を教育のモットーとしてきました。大学の正門を入った左手に渡邊龍聖先生の写真と「実学・語学・品格」と書かれたモニュメントがあります。時代が移り変わろうとも、教育の基本は変わらないことではありません。

実学という言葉は普段あまり耳にしないものかもしれませんが。ここで言う「実学」とは、現実に即した学問というだけでなく、幅広い教養と高度な専門性に裏付けられた実践的な学問です。そのために本学では一般教育において歴史や文学、自然科学などの科目を揃えています。そのうえで、経済学科、商学科、企業法学科、社会情報学科において、より専門的な教育を行っています。

さらに高度な教育は大学院において行われています。大学院商学研究科では博士前期課程、博士後期課程において、高い専門性を持った教育を行っており、研究者の育成も行っています。専門職大学院、いわゆるビジネススクールでは、高度専門職業人の育成を目的に、主に社会人に対して実践的な教育に力を入れています。

語学の重要性についてはここで改めて強調する必要がないほど、十分に認識されていると思います。皆さんの中にも留学を希望されている方がいると思います。現在は新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延により、人々の移動は制限されています。しかし、これまでも揺れ戻しを経験しながら、グローバル化は進んできました。大きな流れとしての経済のグローバル化自体を止めることはできません。日本にとっても、そして北海道にとっても経済のグローバル化は経済活性化のために必要です。

本学は2015年にグローバル・マネジメント副専攻プログラムを開始し、今年度からはグローバルコースも始まります。これらのコースでは、英語で専門科目を学ぶ機会を増やしました。本学は、語学教育に力を入れており、多くの短期語学研修や交換留学の制度を設けて皆さんの後押しをしています。特に卒業生である佐野力氏の名前を冠した「佐野力海外留学奨励金」により、例年であれば毎年60名の学生を海外に派遣しています。

実学・語学・品格の最後にある品格、別の言葉で言えば、「人格の修養」が教育のモットーとなっています。これは、ビジネスが人と人との協業であり、お互いに信頼しあい、協力し合うための基本となっているからです。「人格の修養」は常にその意識を持ち、長期的に継続する必要

があります。今年のNHK大河ドラマで取り上げられた、明治の実業家、渋沢栄一もその著書『論語と算盤』の中で特に若い人々に対して自分を磨き上げることを推奨しています。

しかし、どのような教育のモットーがあったとしても、大学では皆さんが主体的に学ぶという姿勢が求められます。これまで皆さんが経験してきた小・中・高での勉強の方法と大学での勉強には大きな違いがあります。大学で何をどう学んでゆくかは基本的に皆さん一人一人が主体的に考えて行かなければなりません。特に本学では研究指導、いわゆるゼミが必修となっています。3年生、4年生の2年間、指導教員や他のゼミ生とともに専門分野について少人数で学びます。ゼミでの少人数教育も本学の教育の特徴の一つです。そこで学問を究めるだけでなく、生涯の友と出会うこともできます。

新型コロナウイルスにより世界は大きく変わりました。今はウィズ・コロナの時代となり、「新しい日常」に私たちは対応しなければなりません。大学での学び方自体が大きく変わろうとしています。コロナ禍で昨年度の前期の授業はすべて遠隔授業となりました。後期についても多くの授業が遠隔となりました。今年度の前期は対面と遠隔授業そして両者を融合したハイブリッド型授業を安全を確保しながら進めていきます。不慣れな遠隔授業への対応に苦慮されると思いますが、大学として全力でサポートします。

また、これまでの入学式の式辞でも繰り返し述べられましたが、9年前、本学のグラウンドにおいて運動クラブの学生が飲酒により死亡するという事故が起こりました。この学生は入学したばかりの1年生でした。亡くなられた学生には心からの哀悼の意を表したいと思います。一方で、私達はこの事故を教訓とし、二度とこのような不幸な事故を起こさないことを誓いました。その誓いの石碑が体育館の玄関横にあります。未成年の飲酒は法律で禁じられています。それだけでなく、飲酒は時には死につながる危険な行為でもあります。私達も皆さんにとって安全で安心できるキャンパス作りに努力していきますが、皆さん自身もルールを守り、充実した学生生活を送って頂きたいと思います。

最後になりますが、ウィズ・コロナからアフター・コロナへと移る時代の流れと変化を観察し、その先にある未来を思い描ける能力の一端を学生時代に身に付けて下さい。

令和3年4月2日 国立大学法人

小樽商科大学長 穴沢 眞